

要旨

社会問題の多くは、社会的ジレンマ状況における人々の非協力的な振る舞いが原因とされている。この問題解決には、非協力的な人々の行動変容を促す必要があるとされているが、そのためにまず、何が彼らの非協力的な心的傾向や行動を促しているのかについて把握しなくてはならない。そこで本研究では、「人は皆、純粋なる利己主義者である」という信念（「利己主義人間観」と定義）が非協力的な様々な心的傾向や行動をもたらしているという議論に着目し、利己主義人間観の帰結に関する理論仮説を検証することとした。加えて、問題解決手段のひとつの手がかりとなることを期待して、利己主義人間観を信じるようになった要因についても探索的な調査を行った。その結果、本研究で挙げた仮説「利己主義人間観が非協力的な様々な心的傾向や行動をもたらす」をおおむね支持することができた。また、利己主義人間観を信じるようになった要因として、自分自身が利己的であること、「自分の知る人は皆、利己主義者なのだろう」という認識が影響を及ぼしていることが示された。